

令和 6 年度 学校経営環境分析書

令和 6 年 4 月 1 日
三原市立木原小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 【地域】 ◇ 学校への深い理解と惜しみない協力がある。 ◇ G T となる人材や学習素材が多くある。 【市教委】 ◇ 市の方針や施策が明確に示されている。 ◇ 経営に係る支援や指導・助言が得られる。 ◇ 小規模校の要望への丁寧な対応がある。 ◇ 授業改善や ICT 機器活用、読書活動等に係る施策の推進、教育環境の整備が図られている。 【県教委】 ◇ 「学びの変革」アクションプランをはじめとした県の方針や施策が明確に示されている。 ◇ 取組事例や各種資料が豊富に提供されている。	S (強み) 【学校】 ◇ 小規模校（少人数）の環境により、全職員が全児童の実態を把握し、個に応じた指導・支援を行うことができる。 ◇ 地域の素材を生かした生活科・総合的な学習の時間の研究を積み上げている。これにより、表現力や論理的思考力、主体性、協働性等の育成が実現している。 ◇ 学校図書館司書の活用等により、読書環境が充実し、読書教育の推進が図られている。 ◇ 環境教育・キャリア教育等、特色ある教育活動が展開されている。 ◇ 幼保小中連携教育の目指す姿に向けた取組が効果を上げつつある。 【児童】 ◇ 一人一人の児童が活躍する場が多い。 ◇ 自信や自己肯定感が高まってきている。 ◇ 明朗快活、素直である。 ◇ 粘り強く挑戦する意欲や態度がある。 ◇ 異学年集団でのつながりが深い。 ◇ 基本的な生活習慣は概ね定着している。 ◇ 地域の伝統文化を引き継いでいこうとする思いをもっている。 【保護者】 ◇ 学校への理解があり、大変協力的である。 ◇ 学校行事等に積極的に参加をされる。	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ○ 個の実態把握・分析とそれに基づく指導・支援 ○ 地域の素材（人・自然・歴史・文化）を生かした「ふるさと学習」 ○ 保護者・地域との連携・協働 ○ 読書環境を生かした学習活動 ○ 幼保小中連携教育に基づく活動 ○ ICT 機器を活用した授業改善、教員・児童の ICT 活用スキルアップ ○ 様々なことに挑戦する活動、個々の児童に自信をもたせる活動
	T (阻害的要因) 【地域】 ◆ 地域の少子高齢化が進んでいる。 ◆ 危険な場所がある。（海、線路、狭い道路、土砂災害の危険） ◆ 商業施設や金融機関が少ない。 【市教委】【県教委】【国】 ◆ 施設・設備の老朽化が多く見られる。安全面・衛生面で整備等が必要である。	W (弱み) 【学校】 ◆ 教職員が少人数なので、多くの分掌を担う必要がある。 ◆ 完全複式担任により、各学年の取組について相談や連携が図りにくい。 【児童】 ◆ 学力は全体的に概ね定着していると言えるが、個人差が大きい。 ◆ 少人数のため、人間関係の範囲が狭く限られている。また、集団での活動や学習が経験しにくい。 ◆ 表現力に課題がある。 ◆ 個の体力・運動能力の向上を図る取組が必要である。 【保護者】 ◆ 家庭数の減少に伴い、PTA 活動の負担が大きくなっている。	弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策は ○ 業務改善並びに計画的・効率的な職務遂行 ○ 教職員の同僚性とウェルビーイングの高揚 ○ 基礎学力定着のための継続的な取組（繰り返し学習、個に応じた指導） ○ 様々な人とふれあう場の設定 ○ オンライン等を活用して、他校との交流活動 ○ 表現力を高める教育研究の推進 ○ 個々の体力・運動能力向上のための工夫と継続的取組 ○ 地域、PTA、学校との協力体制づくり

2 本年度重点目標

- | | |
|--|---|
| <p>〈確かな学力の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。 <p>〈豊かな心の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら行動し、やりぬく意欲と自信を育てる。 <p>〈健やかな体の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。 <p>〈信頼される学校の形成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・地域の学校への理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現力並びに主体性、協働性を育てる。 ○ 他者を思いやり、協働する態度を育てる。 ○ 運動への意欲を育て、体力の向上を図る。 ○ 安心・安全な学校づくりを推進する。 |
|--|---|